

2005年6月30日

株式会社 富士経済
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
2-5 F・Kビル
TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165
URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>
広報部 03-3664-5697

一般用医薬品（大衆薬）市場の定期調査を実施

注目市場2005年見込み

目薬	395億円（04年比 3%増）	中高年需要とアレルギー用目薬の伸びが貢献
育毛剤	146億円（04年比 1%減）	女性開拓でユーザー離れをカバーできるか
催眠鎮静剤	52億円（04年比 11%増）	後発参入が期待される
尿もれ抑制薬	29億円（04年比 54%増）	新規参入もあり市場拡大期待

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 原 務 03-3664-5811)は、昨年12月から今年6月にかけて、一般用医薬品の主要薬効65領域の市場動向を調査・分析した。さらに複数の薬効領域をまたぐ注目テーマを設定して、そのトレンドや今後の市場規模を明らかにした。

この調査結果を報告書「新・一般用医薬品データブック2005」(NO.1~NO.4)にまとめた。

<調査結果のまとめ>

1. 一般用医薬品の市場動向

1) 2004年の実績

一般用医薬品は前年比96%の6,384億円となり、新医薬部外品に移行していることもあり毎年前年を下回る市場規模で推移している。売り上げ好調の大鵬薬品工業「ハルンケア内服液」に加え、小林製薬「ユリナール」により市場が倍増している尿もれ抑制薬、微減傾向の市場に新参入のライオンが「ストッパ下痢止め」を投入した止瀉薬、エスエス製薬「ドリエル錠」のヒットにより大幅に需要を伸ばした催眠鎮静剤など、全体が不振な中で実績を伸ばしている薬効領域も見られた。

2) 2005年の見込み

一般用医薬品市場は前年比97%の6219億円の見込み。こうしたなか近年では花粉症対策の通年化傾向に加え今年は飛散量の影響を受けてまれにみる花粉症関連市場拡大が期待される。また、催眠鎮静剤の「ドリエル錠」の睡眠改善、尿もれ対策薬市場などといった生活改善領域が引き続き好調を維持すると見込まれる。

2. テーマ別市場分析(店頭展開分析)

薬効を単一の品目市場で捉えるのではなく、生活者の利用シーンに合わせて一般用医薬品を捉え、市場活性化を目指した分析を行った。注目したテーマは、(1)関節痛対策(2)肩疾患対策(3)眼精疲労対策(4)花粉症対策(5)乾燥対策(6)二日酔い対策(7)生活習慣病対策(8)美肌対策(9)女性向商品である。

関節痛対策市場 2004年197億円(前年比6%増)、05年206億円(04年比5%増)見込

この市場は、関節痛の対策を訴求するもので、外用消炎鎮痛剤、その他精神神経用薬の「コンドロイチンZ S錠」、ビタミンB1主薬製剤のなかでもコンドロイチンを配合した関節痛訴求商品を捉えた。

関節痛対策市場は、2003年からビタミンB1主薬製剤から関節痛訴求商品が参入し、内服タイプが市場を牽引している。外用タイプでは、興和新薬の「バンテリン」シリーズが好調を維持している。内服タイプでは、ゼリア新薬「コンドロイチンZ S錠」、ロート製薬、武田薬品工業がそれぞれ順調に実績を伸ばしている。

眼精疲労対策市場 2004年579億円(前年比2%減)、05年580億円(04年比微増)見込

回復しにくい充血、かすみ、目が乾くなどの症状を緩和・予防する品目で構成され、一般点眼薬、人工涙液、洗眼薬と、ビタミンB1主製剤(眼精疲労訴求商品)、ビタミンB1B6B12主製剤、ブルーベリーなどを配合した健康食品を捉える。ブルーベリーなどの健康食品が台頭し、コンタクトレンズユーザーの増加を追い風に人工涙液が新たに伸びて市場を支えている。点眼薬は中高年層の使用が増加して順調に実績を伸ばしている。今後、オフィスや家庭環境のデジタル化も影響してアイケア意識の高揚が期待され、その潜在需要をいかに引き出し市場を育成するかが鍵になると考えられる。

花粉症対策市場 2004年279億円(前年比7%減)、05年312億円(04年比12%増)見込

主として目と鼻のアレルギー症状の予防・治療を訴求したものを対象とし、一般用医薬品では、目薬の中でもアレ

ギー用点眼薬と洗眼薬、鼻炎治療剤、抗ヒスタミン剤、漢方処方エキス製剤の小青竜湯をまた衛生雑貨となる鼻腔拡張テープと鼻洗浄剤を捉える。

2005年は、通年化傾向の市場で外用タイプの予防訴求が定着したうえ、花粉の飛散増が加わり外用・内服タイプそれぞれの伸長が見込まれ、近年ではまれに見る市場の拡大が期待される。鼻炎治療薬は内服薬・点鼻薬で内外両面からのアプローチで治療効果を高め、花粉対策市場での必須アイテムとして定着した。

いかに花粉などのアレルゲンを体内に侵入させないかがポイントになると考えられ、医薬品だけでなく、食品や化粧品、トイレタリーなど広範囲に亘る業界を含む市場に拡大している。

3. 注目の効能品目市場動向

目薬 05年395億円(04年比3%増)見込

洗眼薬と点眼薬があり、点眼薬は用途によって、抗菌用、アレルギー用、コンタクトレンズ用人工涙液、それに一般点眼用に分けられる。04年は、中高年層需要とコンタクトレンズユーザーの拡大が続き前年を上回る実績となった。アレルギー用目薬は04年は花粉の飛散が限定的で伸び悩んだが、05年はシーズン前から花粉の飛散量の拡大が指摘され、中高年層需要にアレルギー用の実績の伸びが加わり市場拡大が見込まれる(05年42億円見込み・04年比15%増)。ターゲット別には、子供用は少子化の影響で低迷傾向にあるが、コンタクトレンズユーザー向け人工涙液が好調に推移する(05年68億円見込み・04年比5%増)。

育毛剤 05年146億円(04年比1%減)見込

育毛、養毛、発毛の効果を訴求している医薬品を対象とする。1999年に大正製薬「リアップ」が200億円の実績で市場を拡大した。その後製品への過剰期待から一過性需要の反動が続き、04年に第一製薬が「カロヤンガッシュ」で実績を高めたが大正製薬の実績カバーに至らず、全体市場は、前年比12%の減少となった。

05年は、女性用「リアップ」(大正製薬)の発売や、「リアップ」の実績回復により、全体の減少幅は縮小すると見込まれる。大正製薬は、リアップで育毛剤ブランドとして圧倒的な市場を築き、最近リアップにシリーズ化戦略を展開。女性用の新製品効果から実績を回復する可能性が高いと思われる。

鼻炎治療剤 05年160億円(04年比19%増)見込

くしゃみ/鼻水/鼻詰まりなどの症状に対して使用され、風邪の需要が多かったが、最近では花粉症のシーズンでの需要が中心になってきている。風邪の流行以上に花粉症需要に左右される市場となっており、2005年は空前の花粉尘飛散量が予報され、花粉症需要を見込んだ販売体制がいち早く準備された。上位各社とも持続性タイプの製品をふたたびラインナップするなど効果面でPPA以前の商品展開に戻っていることから市場は20%近くの伸びになると見込まれる。ライオンから口腔内即崩壊技術を応用した新製品が発売されて、水なしでも簡単に服用できるといった利便性、使用シーンの提案が需要につながるか今後が注目される。

催眠鎮静剤 05年52億円(04年比11%増)見込

眠りに対する意識の高まりと、タイムリーな「ドリエル錠」(エスエス製薬)の登場で一躍市場が認知された。潜在需要は大きく、市場として有望性がますます高くなっている。2005年は市販後調査期間が終わるため後発参入が進むと見込まれる。

尿もれ抑制薬 05年29億円(04年比54%増)見込

大鵬薬品工業「リルンケア内服液」(04年シェア54%)により市場が形成された。参入当初は伸びが見られなかったが、ニーズは高齢社会の中で高まっており、広告活動により市場は順調に拡大している。高齢者の三大症状のひとつと位置付けられる排尿改善の需要は高まり、プラスに推移することが見込まれる。

<調査の概要>

一般用医薬品全体を薬効領域別に(1)胃腸薬(2)その他消化器官用薬(3)眼科用薬(4)外皮用薬(5)感冒関連用薬(6)その他精神神経用薬(7)泌尿器官用薬(8)歯科口腔用薬(9)その他医薬品(10)ドリンク剤(11)ビタミン剤(12)その他保健薬(13)循環器・血液用薬(14)漢方処方エキス剤のカテゴリー分類から65品目を対象とした。

04年7月30日に施行された新範囲医薬部外品への移行や今後予定される薬事法改正を踏まえ、一般用医薬品、新範囲医薬部外品別の市場動向を捉えた。

店頭での品目間の垣根を越えた営業展開や競合が進んでいる状況から、市場を単一薬効別から品目横断的に分析すべくテーマ別分析を試み、関節痛、二日酔い対策など9つの注目テーマ市場を分析した。

<調査の背景>

一般用医薬品市場は、04年から05年にかけて大きな変革期を迎え、企業ごとブランド毎に事業運営の効率化を求める声がさらに強まっている。

店頭ではPB商品のフェース拡大や販売価格の低下がさらに進み、NB商品は価格攻勢への対抗策として既存品のリ

ニューアルによるブランドの建て直しを図る動きも活発化している。また企業間では、05年も一般用医薬品を主体とするヘルスケア事業の合併・統合を表明する企業が続出、業界再編が加速度を増している。合併、統合を行っていない企業においても事業の採算性向上に向けた取り組みが明確な方針として打ち出されている。

<調査方法>

当社専門調査員による参入企業および業界関係者への直接ヒアリング調査をベースに、各種公的データ、既存刊行資料を参考にして分析した。

調査は、2004年12月～2005年6月に実施

以上

資料タイトル : 「新・一般用医薬品データブック2005」(NO.1～NO.4)
体 裁 : A4判 202頁(NO.1) 214頁(NO.2) 231頁(NO.3) 156頁(NO.4)
価 格 : NO.1～NO.3 各巻90,000円(税込み94,500円)
NO.4 100,000円(税込み105,000円)
NO.1～NO.3 セット価格 250,000円(税込み262,500円)
NO.1～NO.4 セット価格 330,000円(税込み346,500円)
CD-Rセット価格 20,000円(税込み21,000円)
*NO.1～NO.3、NO.1～NO.4の書籍セット購入を前提。

調査・編集 : 富士経済 東京マーケティング本部 第2事業部

発行所 : 株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL 03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165

e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp>